

第十三回 参議院地方行政委員会會議録第五十七号

昭和二十七年六月二十日(金曜日)午後二時二十七分開会

出席者は左の通り。

委員長 西郷吉之助君

理事 堀 末治君
中田 吉雄君

委員 岩次 忠泰君
石村 幸作君
宮田 重文君
岡本 愛祐君
館 哲二君
若木 勝蔵君
原 虎一君
吉川末次郎君
林屋龜次郎君
岩木 哲夫君
深川榮左エ門君

國務大臣 岡野 清豪君

政府委員 法務府法制
意見長官 佐藤 達夫君

地方自治庁次長 鈴木 俊一君

事務局側 常任委員 福永亨一郎君
常任委員 会専門員 武井 群嗣君
会専門員 会専門員

本日の會議に付した事件

○地方自治法の一部を改正する法律案 (内閣提出、衆議院送付)

○委員長(西郷吉之助君) それでは只

今より委員会を開会いたします。

第三部 地方行政委員会會議録第五十七号

昭和二十七年六月二十日【参議院】

○吉川末次郎君 議事進行について。

會期が非常に切迫して来たのでありま

すが、委員長が議事の取扱について、

議事の進行をいろいろと御苦心下さい

ますことは大変感謝しているものであり

ますが、議案のうちで大体において各委員ともそれほど意見の相違のないと見なされるもの、或いは又非常に実施期日との関係上急を要するものというふうなものにつきましては、我々のほうでもそれに即応した考えを以て臨むようにいたしましたと思つておりますが、ただ著しくこの法案の内容についての考え方において、政治的な立場からの意見の相違を来し意見の対立を来しておりますようなものにつきましては、特に慎重なる考慮を委員長が私われないと思つております。で、實質的に我々参議院の持つておりますところの法律上の権限が政治的に衆議院よりも弱いということのために、一つの法案につきまして我々が決定いたしましたことが、衆議院の議決と反したようなことになりましたときには、憲法上、衆議院の三分の二の多数を以てそれが覆えられて我々の決定したところの意思が国会の議決にならないというところは、もとより委員長御承知のごとくであります。従つて政治的な見地からいたしますと、そうしたやり方を我々がとるといふことにつきましてはいろ／＼議論の余地はあるかと思つてはいるけれども、現実的に我々が衆議院の議決と反対の政治的意見に終始しよう、又それが国家のために正しい

ことであるといふところの信念の上に立つて我々が臨みますときには、その憲法の規定に準拠いたしましたして、それから生れて来る国会内の政治戦術、と言ふと甚だ語弊がありますが、やり方として審議未了といふことをも考へて、實際上の我々の国家に対する正しいと思ふ意見の貫徹を期さなければならぬ場合もあると思つております。ただそういう点をお考えになりまするならば、重大な政治意見の対立を来たしておきますところの議案につきましては至公至平の立場に立つて議案の処理に臨まれるのが委員長の私は当然の職務であると思つております。から、ただいたすに今日上げようとか明日上げようとかいふような政府の意見に迎合して、そうしていたすに討論の過程に入ること、質問の打ち切りを策すること、そうして早急に採決の過程に入らうといふようなことを急がれるといふことは、これは委員長の公平であるべき見地からして、この際重大なる御考慮をその点につきましては煩わしいと思つております。今当面いたしておりますところの幾多の法案の中には、明らかに今日重大なる政治性を持つて国民の間に意見の対立を来たしておきますところの法案があるものでありますから、どうぞ右のよう

なことを十分御考慮下さいまして委員長は公平なる立場においての議案の審議に臨まれんことを希望いたしておきます。

○委員長(西郷吉之助君) 只今の吉川さんの御意見には御尤もな点もござい

ますが、御発言中に委員長が何か政府と呼びまして運営上非常に独善的なことをやつておられるように私は聞きとり

ました。私は御承知の通り常に重要な運営につきましては各議員諸君にお諮りしてやつておられますので、独断でやつたことは自分ではないと思つておりますから、そういう点は御了承願いたいと思つてお

○吉川末次郎君 再度発言を要求いたしますが、かような委員長個人の態度について私は特定のしるしを述べたつもりではないのであります。若しそのように委員長がおとりになるような私の表現がありましたら、それは決して私の本意でないといふことをどうぞ御了解願いたいと思つてお

ります。委員長は以上申しましたようなことに則りまして、飽くまでも意見の対立をいたしておられると思われるところの法案の処理については、特に公平なる態度において慎重の処理をせられることをば重ねて希望いたしておきます。

○中田吉雄君 地方自治法はどうか

○中田吉雄君 地方自治法はどうか

ております。それさえできればもう三分ほど、出先が大分速い所でございますから帰つて来るのを待つて居るわけでありませぬ。それで話合ひができませんれば、段取りといたしましては、明日は大したことはございませぬから、衆議院の本会議にのせるというごことに段取りまでついでに次第でございます。ただ一点だけ残つております点かもう二、三十分経たなければすべての手続が完了いたしませんので、実は遅れておるわけでございます。

○中田吉雄君 委員長並びに岡野さんは非常に御努力して頂いているのに恐縮ですが、自治法を施行します裏付は税法でありますので、これが私はもつとはつきりしてからのほうが、もやもやしたりちで審議してもなか／＼心理的にはつきりしないものがありまして、地方自治法を施行する裏付は税法であつて、税法はつきりしてその完璧が期せられると思つて、それがはつきりするまでちよつとお待ち願つたらどんなものでしょうか。

○岩木哲夫君 私中田君の意見に賛成ですが、今朝来政府及び手党の態度が二つにも三つにも分れてあつちの手党の幹部はこれを呑むと云う、こちらの手党の幹部は呑まぬと云うて、而も具体的に言えば自由党の水田政調会長が各党の役員室を訪問して、僕のは呑まぬようにするのだから賛成してくれ、と野党のほうに陳情して廻つて居ると云う、こちらのほうの大臣は呑むことにきまつたのだからどうぞ御安心下さい、だん／＼簡じ詰めて行くともう少し待つてくれと云う。結局これをほかの破防法、警察法というものを対して自治法というものを駈引に最

後まで使おうとして、呑むとか呑まぬとか、呑んだり吐き出したりしつづつ最後まで持つて行くということが作戦だからというこの三つの話が衆議院、参議院の中に展開されておるといふような実情であります。本来ならば、この法律案は手党各位のかたの修正案が強く出され、又各党とも一致してそれぞれ出して居る。而も衆議院の代表の野村専太郎修正対策委員長の了解、事実上両院協議会になるべきを西郷委員長が折衝して両院協議会を経ずして参議院の修正案を呑みます、了承いたしましたという約束の下に本会議に上程されて決定されたような形であつて、それを衆議院の修正は総額百三十億、参議院は二、三十億であるが、参議院の財源がないではないかという侮蔑的な態度でこの法案をあの手の道具に使おうというような駈引の段階が現在の状態でありませぬ。今岡野大臣が非常に御苦心なされてかれこれ折衝されておるようでありますけれども、やはりもう三十分くらいで返答があるのだつたら一遍休憩でも願つてその返答を聞いてから審議して頂くというふうには、先日来からのいきさつから見ても、成るべく早く結論を上げたいという状態から見て、委員会をとるべき正しき態度だと私はこう思つて居るのですが、折角とてもお急ぎで吉川委員の御請求の資料その他も立派に揃つておりますので、無駄の時間を費したくありませんが、やはりこれは挙げて当参議院或いは当委員会の重大な政治的責任のある問題でありますから、一応そのもとはつきりつけてから審議して頂くというふう

にすべきがいいのではないかと思つて居るが、どうでしょうか。

○中田吉雄君 只今岩木委員の言われたことをみて私はまず／＼その必要を痛感したわけなんです。こういうことでは、蛇の生殺しのようなことで無議の駈引に使われましてこれこそ私は非常に重大な影響を受ける。むしろこの一兩日でも休んで頂いて、我々の案を呑んでとは言いませんが、衆議院の独自性もあるわけですから、はつきり結末をつけてもらつて、一萬千里であとは全部委員長の立場を十分了としてやりたいと思つて居るのですが、一つそのようにお諮り願ひたいと思つて居る。

○委員長(西郷吉之助君) 私も同感でございます。実は今朝岩木さんと一緒に長時間折衝いたしましたけれどもまだいささかはつきりしないところもございませぬ。これは先日来の理事會でも各党も強く要望しておりますので、これはどうも政府においてもう少しはつきり早く確定しないとこれがどうしてこの審議に影響いたしますので、今の御要求に對しましては私は全く同感でございます。今さよ／＼大臣が何か発言を求められておりますから……

○岡野大臣(岡野清彦君) 岩木さんのお言葉の中から水田政調会長の名前が出ましたから私一応釈明いたします。時間は一時三十五分ちよつと過ぎでございます。党の三役全部に会ひまして、そうして私が先ほど申し上げましたような方向に來ておるといふことははつきり私はずかんで來ております。でございますから、或いはいろ／＼お話を聞かされておつたか何か誤解があるのではないかと思つて居るが、水田政調会長を含めた三役と私は話をして來て

おりますからこれは御了承願ひたいと存じます。

○岩木哲夫君 私は何にも知らぬのに、衆議院の我が改進黨の国会対策委員長がちよつと君えらいことだから來てくれといふことでそこであつて行くと云うと、今自由党の政調会長が來たぞ、僕は今廊下で行きかへつた。改進黨の部屋から出かけた水田政調会長が衆議院の自由党では、参議院の地方制度の修正案は呑まないことにしたいと思つて居るのほうも同調してくれんかといふ申入れたつた。そこで君はそれは正式かと言つて、正式だと言つた。それは重大だといふので私も一応難儀と相談して早くやらなければならぬ。私は呼ばれた。そこで大変だといふので直ちに緊急議員総會を今から三十分ほど前に開いて、実は自由党からはこういう申入があつたからどうするかといふことを言つたらばかみ休み休みに言えといふことと一併に附しておる。何で自由党がそんなことを言えた義理かと一笑に附しておるような次第であります。そこで実はこういういきさつがあつたからさ／＼奇々怪々になる。先ほど私が申したように自由党がこれを他の法律案の審議或いは可決の上に道具に使おうという情報にまさに行当ると、これは私は水田政調会長の話は正しいので、私どもの権限君でも川崎君でも証人に喚問しまして聞いてもらいたい。更に私は委員長と佐藤郵政大臣と控室で話しておつたときにも自由党の政調会の理事の何と云う人がわざ／＼やつて來て、そして政調会ではこれを呑まないことにしたのだ、併しそれだけを私は西郷委員長の前で言つて、あとで佐藤郵政大臣と

耳打をして話しておつたのは、呑むとか呑まぬとか道具に使うとかいふ趣旨のことは何したことはもう一二〇〇%わかつておる。これはもう各方面のうわさが専ら今朝來出てるその正に裏付の歴然たる証拠であつて、これは水田政調会長がそういう御相談をしたという事は事実であるから、早速一つ川崎君と権限君を証人に一つ私はお願ひしたいと思つて居る。

○中田吉雄君 私は内村さんから聞いて、この参議院修正の赤字の財源補填の大蔵大臣の確約をとつておくことが今後必要だからその手順だといふので、非常に了としてそれなら余りごたごた言つてはいけなかつたことだつたのですが、岩木君の発言を聞いてまゝに海千山千の自由党の衆議院の人のやりやうなこれは手だと思つて居る。それは實際私も聞いて居るのです。それは一番困るのが業者の花代の百分の百を百分の七十に参議院で下げた。これを何とか元に戻したいといふのをそれをやるのが困難だ、だからここで固定資産、固定資産と言つてそこで又業者の花代を百分の百に直す。因鉄その他の固定資産税を復活して行くといふのが考えられて居る政略ださうです。一つこれは塚田君が私のところの勝間田君に話をしたはつきりして居る問題なんです。

○委員長(西郷吉之助君) 只今先ほど來いろ／＼地方税法の衆議院の取扱ひ方について御発言もございませぬけれども、連日私も向うと交渉して居るわけで、今の御発言もございませぬが御質疑がなければこの程度で散會いたしました。連日私が単独で、今日は岩木さんと御一緒に午前中も交渉してお

りまするが、今いろ／＼御発言がありましたように、あれやこれやのことが向うではそのままであるので一応ここでは報告もできませんので、一つ理事の各位に御同行をお願いしたいと思います。本日はこれにて散会いたします。

午後二時四十五分散会

六月十九日予備審査のため、本委員会に左の事件を付託された。

一、地方財政法の一部を改正する法律案（衆）

地方財政法の一部を改正する法律案

地方財政法の一部を改正する法律

地方財政法（昭和二十三年法律第百九号）の一部を次のように改正する。

第三十三条に次の一号を加える。

四 防火建築帯の指定に伴う施設の建設費その他防火建築帯の造成に要する経費

附則

この法律は、公布の日から施行する。

昭和二十七年十月二十三日印刷

昭和二十七年十月二十四日発行

参議院事務局

印刷者 大蔵省印刷局